

第1回水中ロボットフェスティバル参加報告

第1回水中ロボットフェスティバルが、2006年10月21日神戸大学深江キャンパスで開催された。本フェスティバルは、海洋に関する国際会議TECHNO-OCEAN 2006 / 19th JASNAOE Ocean Engineering Symposiumの一環として行われたものである。

フェスティバルには180名の参加者が有り、盛況であった。作品も、大学、高校、民間企業、個人から合計した41のロボットが出展された。ロボットも力作ぞろいで、身近な材料を使って作り上げた高校生の力作ロボット、水底を移動しながら清掃を行う実用的な水中ロボット、最小のエネルギーで水中を自在に泳ぎ回る水中グライダー、本物にそっくりな形と動きを持つ魚ロボット、イカの動きをモデルとしたユニークなイカ型ロボット、最近注目を浴びている自律型ロボット、超小型の遠隔操縦式水中ロボットなど実に多彩であった。百聞は一見に如かずで、様々な水中ロボットの動きを直接見ることで、学会や講演会とは異なる多くの貴重な情報に接することができた。参加者も水中ロボットの開発に携わる研究者や技術者の他、学生、高校生、一般民間人(小学生を含む)、アマチュア愛好家など様々で、多くの分野の人の間の交流が

行われた。詳しくは、水中ロボットフェスティバルのホームページ

(<http://aquarobo.web.fc2.com/kobe/>)を参照されたい。

フェスティバルでは「倉工チャレンジャー」を出展した県立岡山工業高校1年生 石森 翔也君に、学生部門最優秀作品賞が贈られた。今後の発展が楽しみである。

本フェスティバルは国内では初めての試みであった

が、このように成功裡に終了した。西村委員長を初めとする実行委員の方々、作品の出展者、アルバイトの方々、見学者など、多くの人の尽力によるものである。今後のフェスティバルの発展が楽しみである。

フェスティバルの状況はテレビカメラで記録されており、実行委員の手により編集される予定である。IEEE OES Japan Chapter は共催団体として本フェスティバルに参加し、支援した。(浅川記)



西村委員長

